

ICM セットアップ中に CrashDumpEnabled の値がゼロに設定される

目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[問題](#)

[解決策](#)

[関連情報](#)

[はじめに](#)

設定される Cisco Intelligent Contact Management (ICM) がメディアが \ icm \ \ デレクトリから動作するとき、 \ CurrentControlSet \ \ CrashControl \ CrashDumpEnabled 0 に登録値設定されます。このドキュメントでは、この問題のトラブルシューティング方法について説明します。

[前提条件](#)

[要件](#)

次の項目に関する知識が推奨されます。

- Cisco ICM のインストールおよびアップグレードのナレッジ。 [インストール](#)を参照するか、[または](#)詳細については[ガイドをアップグレードして下さい](#)。
- regedit を登録値を編集するのに使用する方法的ナレッジ

[使用するコンポーネント](#)

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 (デフォルト) 設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

[表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

問題

Cisco ICM/Cisco によって統一されるコンタクトセンター (IPCC) セットアップ手順は 0 に、`CurrentControlSet \ \ CrashControl \ CrashDumpEnabled` の登録値を設定します。

解決策

問題を解決するためにこのソリューションを使用して下さい。

`CrashDumpEnabled` 登録値は偽に常に自動的に ICM ノードが実動モードに置かれるとき設定されず (Cisco ICM セットアッププロセスによる 0) 値。これはハード ドライブを一杯にする非常に大きい `memory.dmp` の作成を避けるためにされます。

沢山のハード ドライブ領域があり、その 2 GB を失うことができることができるまたはメモリの GBs のどんな量があるサーバであることに感じれば、`CrashDumpEnabled` 手動で再び有効にすることができる。そうするために、1.に値を設定して下さい。ただし、ICM 設定がそのノードで動作し、実動モードに再度置かれる時はいつでも、値は 0 に再度設定し直されます。

関連情報

- [音声とユニファイド コミュニケーション サポート リソース](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント - Cisco Systems](#)